

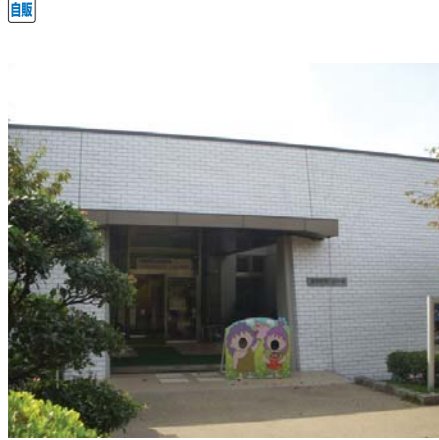
# かすかに残る 史跡を訪ねて 廃線コース

## コンセプトポイント



**1であいのみち**  
別府鉄道土山線の軌道跡地を利用し、緑道として整備された道。別府鉄道土山線は別府港にある多木製肥所（現在の多木化学）で製造された化学肥料や製鉄化学工業（現・住友精化）の製品を輸送するために、山陽本線との接続路線として開業したが、1984年に廃止された。

**チェックポイント** 昔の鉄道のレールの軌跡に沿って歩くことができる。



**2播磨町郷土資料館**  
別府鉄道土山線で使われていたディーゼル機関車と客車が展示してある。ディーゼル機関車は1953年に倉敷市交通局（現水島臨海鉄道）の機関車として川崎車輛で製造され、その後別府鉄道に入線し、使用されていた。客車は1926年、神中鉄道（じんちゅうてつどう）（神奈川県）開業時に汽車会社で製造された客車で、三岐鉄道（さんぎてつどう）に譲渡された後、1959年に別府鉄道に入線し、使用されていた。

**チェックポイント** 当時実際に利用されていた車輛を見ることができる。



**3別府港駅跡**  
別府鉄道野口線の駅があった場所。周辺には「別府鉄道」という大きな看板が残っている。別府港駅は野口線と土山線の合流駅となっていた。線路のあった場所は道路になってしまっている。

**チェックポイント** 今も残る「別府鉄道」の看板を見ることができる。

昭和59年まで町の交通手段として親しまれていた別府鉄道。その土山線の跡地を利用して造られたあいのみちには、昭和の時代を走った鉄道の面影が残っています。今も保存してあるディーゼル機関車と客車に、当時の様子をうかがい知ることができます。

